

中国「辺境」の地域経済と企業 (2)
～雲南省昆明市と西双版纳傣族自治州～

西澤正樹

Local Economy and Enterprises in China's
Borderland (2)
～ Yunnan Kunming City and Xishuangbanna ～

Masaki Nishizawa

はじめに

第1章 インドシナ半島への陸上ゲート／雲南省 170

- (1) 雲南近代史概観
- (2) 雲南省の地域開発
- (3) 南北回廊の北の拠点／昆明市

第2章 「辺境」地域／西双版纳傣族自治州 195

- (1) 西双版纳傣族自治州の開発動向
- (2) インドシナ半島への最前線／景洪市

第3章 昆明市、景洪市の企業 207

- (1) 優良国有経済の改革 ～紅雲烟草（集団）有限責任公司昆明卷烟廠～
- (2) 地場資源のブランド化 ～龍潤集團（中国）有限公司～
- (3) 資源立地型企業の課題 ～雲南銅業古河電気有限公司～
- (4) アグリバイオ先端技術の優位性 ～雲南河野教大農業科技有限公司～

- (5) 日本市場参入の努力 ～雲南英茂花卉産業有限公司～
- (6) 研究開発型企業の中国事業展開 ～昆明白鷗微藻技術有限公司～
- (7) 都市観光開発と少数民族工作 ～雲南滇池国家旅遊度假區民族村～
- (8) 「辺境」農業開発と工業化 ～西双版纳百果洲天然食品有限公司～
- (9) グローバル企業の中国事業 ～昆明可口可樂飲料有限公司～

第4章 雲南「辺境」の地域産業発展の方向 243

- (1) 雲南「辺境」地域の産業発展の可能性
- (2) 雲南「辺境」地域の産業発展の課題
- (3) 日本企業の構え

おわりに

はじめに

これまでの約20年間の中国は華南、華東、環渤海湾といった「海の中国」を構成する沿海地域の急激な経済成長と市場拡大が注目され、現在も沿海地域の産業発展が続いている。一方、「陸の中国」を構成する内陸地域の産業発展は沿海地域に較べると遅れており、沿海地域と内陸地域の経済格差の解消が進みにくい状態にある。こうした事態を打開するために、国務院は2000年に「西部大開発」¹⁾を発動し、全国の均衡発展政策に取り組んでいる²⁾。

沿海地域と内陸地域の経済格差は確かに存在するが、ともすれば内陸地域は「発展から取り残された地域」であり、さらに経済成長の「中心」から離れた内陸「辺境」地域ともなれば、いっそう「経済が停滞した後進地域」と認識されがちである。

しかし、そうした内陸地域像は沿海地域側からの視点による認識である。内陸地域経済は一定の経済成長を示しており、全く停滞していたわけではない。むしろ、沿海地域の経済成長と市場拡大があまりにも著しかったと捉え

るべきであろう。

雲南省は黒龍江省、吉林省、内蒙古自治区、甘肅省、新疆維吾爾自治區、西藏自治区、とともに「内陸国境地域」に位置する。「内陸国境地域」は政治的、経済的中枢から離れ、内陸国境線を持ち、漢族と人種、歴史、文化が異なる少数民族が多く集住する地域である。そうした地域を中国では古来「辺境」と呼んでいる。

中国の歴史を振り返ると「辺境」から、たびたび革新的なうねりが発生し新たな中心性を創りだしている。「辺境」のもつ革新の可能性に注目する必要がある。今後、沿海地域を含めた地域の経済発展にとって「辺境」の存在はより重要なものになっていこう。

現在、インドシナ半島のメコン河流域地域では「東西経済回廊」や「南北経済回廊」等の交通基盤整備が進んでいる。中国側では雲南省と広西壮族自治区をインドシナ半島との経済交流の前線地域として位置づけ高速道路や鉄道の整備に注力している。

雲南省の中心都市・昆明市<Kunming>とラオスとの国境地域の景洪市<Jinghong>は、バンコックに至る「南北経済回廊」の中国側の要衝であり、今後、飛躍的な地域産業発展が期待される。さらなる発展に向かう昆明市、景洪市の地域産業政策および優良な地域企業の経営実態を正しく理解することが重要である。

本稿では、以上の視点から中国の「内陸国境地域」の一つ、雲南省および昆明市と西双版纳傣族自治州<Xishuangbanna>に注目し、今後の地域産業発展の可能性と課題を分析するとともに、雲南「辺境」に関わり活動する日本企業の構えについて若干の提案を行う。なお、本稿は「中国「辺境」の地域経済と企業～内蒙古自治区呼倫貝爾市～」³⁾に続く「辺境」地域経済報告の第二報となる。

図1-1 雲南省の行政区域



出典) 中華人民共和國民政部編『行政区划簡冊』2007年

表1-1 雲南省の位置 (2007年)

区分	年末 総人口 (万人)	国内 総生産額 (億元)	人的 総生産額 (元)	人的総生産 成長率 (%) ※2	工業生産 利潤総額 (億元) ※3	人的工業 利潤額 (元)	人的工業 利潤生産性 成長率 (%) ※2
全国	132,129	249,523	18,934	18.3	27,155	34,483	37.7
地区合計 ※1	129,919	275,624	21,215	18.3	27,159	34,492	37.7
内陸国境地域	18,469	29,749	16,107	17.2	3,674	66,800	40.3
雲南	4,514	4,741	10,540	15.3	389	47,439	49.5
黒龍江	3,824	7,065	17,487	11.4	1,277	89,301	28.4
吉林	2,730	5,285	19,383	18.4	452	41,468	36.3
甘肅	2,617	2,702	10,346	18.2	215	32,090	68.2
内モンゴ	2,405	6,091	25,393	28.5	642	69,032	72.6
新疆	2,095	3,523	16,999	15.2	692	128,148	50.9
西藏	284	342	12,109	14.7	7	35,000	39.3
沿海地域	54,909	159,972	29,134	17.4	16,479	31,128	30.5
広東	9,449	31,084	33,151	17.1	3,086	23,611	19.1
山東	9,367	25,966	27,807	19.0	3,391	40,806	37.3
江蘇	7,625	25,741	33,928	18.7	2,766	34,968	36.3
河北	6,943	13,710	19,877	16.9	1,270	42,053	57.3
浙江	5,060	18,780	37,411	17.3	1,776	22,453	23.7
広西	4,768	5,956	12,555	19.8	294	29,400	63.5
遼寧	4,298	11,024	25,729	14.7	853	26,006	37.7
福建	3,581	9,249	25,908	13.9	895	24,930	31.8
上海	1,858	12,189	66,367	10.3	1,309	46,418	18.0
天津	1,115	5,050	46,122	15.6	767	63,388	32.8
海南	845	1,223	14,555	13.3	72	60,000	43.1
純粹内陸地域	56,541	85,903	15,198	18.6	7,006	34,512	56.2
河南	9,360	15,013	16,012	20.0	1,942	50,838	74.8
四川	8,127	10,505	12,893	17.5	700	27,132	49.5
湖南	6,355	9,200	14,492	17.2	488	25,026	64.0
安徽	6,118	7,364	12,045	15.7	360	20,225	45.6
湖北	5,699	9,231	16,206	14.3	648	32,400	39.3
江西	4,368	5,500	12,633	16.7	308	21,844	79.5
貴州	3,762	2,742	6,915	17.0	174	25,970	71.8
陝西	3,748	5,466	14,607	21.5	692	55,806	59.1
山西	3,393	5,733	16,945	22.5	570	26,889	55.3
重慶	2,816	4,123	14,660	18.2	242	22,407	50.0
北京	1,633	9,353	58,204	15.4	696	58,487	39.9
寧夏	610	889	14,649	20.3	50	19,231	58.5
青海	552	784	14,257	17.3	136	85,000	67.4

注) ※1 全国の数値は、32直轄市、省、自治区から上がってきた数値の合計。全国数値と一致しない。金額は当年価格。

※2 2002年から2007年の5年間の名目年平均成長率

※3 工業に関する数値は、全部の国有企業及び規模以上の非国有工業企業。

資料) 『中国統計年鑑』2008年版、2003年版

第1章 インドシナ半島への陸上ゲート／雲南省

第1章では、1978年の改革開放以前の約100年間を振り返り、国際政治・経済と国内体制変動の最先端地域であった雲南の近代史を概観する。続いて、ベトナム、ラオス、ミャンマーと内陸国境を接し「辺境の辺境地域」を抱える雲南省の経済を中心とした地域開発の現状を報告する。そして、雲南省の行政および経済の中心である昆明市の産業開発について把握する。

(1) 雲南近代史概観

14～5世紀に明朝は、雲南に漢民族の屯田兵を大量に送り込み最大の民族集団を形成した。しかし、少数民族の総数は漢族をなお上回っていたことから、元朝が構築した「土官」制度を受け継ぎ「土司」制度による統治方式をとった。土官および土司制度は、非漢族の優勢な地域では少数民族の首長を土官・土司に任命し、彼らの独自の習慣に従ってそれぞれの少数民族を治めさせた間接統治政策である。

土官・土司は世襲であり土兵を養い管轄地の土地を所有し裁判権を有しているが、定期的に朝貢し必要に応じて土兵を提供した。これに対し朝廷は「宣撫使」「宣慰使」などの中国官名を与え、その任免は中央が決定した。土官・土司は清朝の全国統治体制に組み込まれてはいるものの「辺境」地方の群雄割拠勢力であり「土皇帝」と称された。

17世紀後半、清朝は「辺境」地域のより厳密な統治制度を制定した。中央に少数民族に関する管理事務を行う理藩院を設置し、モンゴル族と満州に盟旗制度、新疆の維吾爾族に伯克制度、チベット族に政教一致制度を採用した。雲南と貴州は雲貴総督と行政長官である雲南巡撫を置いて統治した⁴⁾。

英仏の侵略

19世紀後半の清朝末期の雲南に重大な影響を及ぼしたのは、イギリスとフランスのインドシナ半島)への帝国主義的進出である。イギリスは1867年、

烟台条約によって雲南・ビルマの国境貿易権を獲得し、1886年には清朝との朝貢関係を消滅させてビルマを実質的に併合した⁵⁾。

フランスは宣教師殺害事件を機会に出兵し、越南国・阮朝にコーチシナ（南部ベトナム）割譲を認めさせ、さらにカンボジアを保護領としインドシナ半島の植民地化を深めていく。

ベトナムの抵抗に対し圧倒的な武力を以て中部ベトナムのアンナン、北部ベトナムのトンキンを保護領とし、宗主権を主張する清朝との間に清仏戦争（1884～85）をおこす。清仏戦争に勝利したフランスは天津条約で清朝のベトナムに対する宗主権を消滅させ、これによりインドシナ半島における英仏植民地と清朝中国との国境を確定させた。

また、フランスとイギリスは清朝に輸出入関税をそれぞれ40%、30%下げたことを認めさせ、雲南の対外貿易の窓口となる税関〈海関〉を設置し、鉄道敷設権を獲得する。フランスは1887年に越南からの交易ルートにある蒙自〈Menzi〉、95年にメコン河流域の思茅〈Simao〉に、イギリスは97年にフランスと同条件で思茅、1902年にビルマからの交易ルートにある騰越（現、騰衝〈Tengchong〉）に税関の設置を認めさせ、ビルマ～騰越の「緬騰鉄道」の敷設権をうかがった。

鉄道敷設権競争を制したのはフランスである。1898年の清仏協定でハイフォンから昆明に向かう「滇越鉄道」の敷設権を獲得し、1904年に着工、10年に開通した。鉄道開通によって雲南にはイギリスの綿製品をはじめ外国製品が流入し、箇旧〈Gejiu〉の錫などの鉱物資源が大量に輸出された。

辛亥革命の根拠地

清朝末の内陸「辺境」の雲南は、滇越鉄道の開通によってハノイ、ハイフォンにつながり、国際政治・経済と直接、接することとなった。帝国主義列強の圧力に直面した雲南では、知識人を中心に早くからナショナリズムに反応した。列強によるアジアの植民地化の動きに旧態依然とした対応を続ける清朝政府への憤りを高めていく。

孫文が主導した辛亥革命（1911）の重要な根拠地は、09年に創立し在職の下士官を訓練する「雲南陸軍講武堂」であった。陸軍講武堂の教官の多くは「中国同盟会」会員を中核とする革命派で占められた。1911年10月10日、湖北省武昌の新軍が蜂起し中華民国湖北軍政府を樹立し辛亥革命が勃発した。これに反応し各省で清朝支配から独立する政権が成立した。雲南省各地でも革命が起こり、11月1日、昆明に「大中華国雲南軍都督府」政府が成立した⁶⁾。

中華民国の成立後、雲南最大の少数民族・彝族<Yi>出身の政治主導者、龍雲のもとで体制改革、経済建設をすすめた雲南省は、経済力、軍事力を備え、抗日戦争、国共内戦、中華人民共和国成立に至る過程で常に革命の根拠地として重要な位置にあった。

1949年、中華人民共和国成立後、中国の内陸「辺境」に位置づけられてきた雲南は、約半世紀を経て「中央」と中国西南地域と接する「東南アジア」との間で新たな「根拠地」となる可能性を高めている。昆明からラオスおよびベトナム方面、昆明、大理からミャンマー方面に向かう高速道路が急ピッチで進められている。今後数年で雲南「辺境」地域は東南アジアにおける経済的位置を高め大きく変貌していくことであろう。

(2) 雲南省の地域開発

雲南省はベトナム、ラオス、ミャンマーと4,061kmの国境を接し、中国のインドシナ半島へのゲートウェイの位置にある。雲南省および「辺境」地方政府には、地域の発展は東南アジア諸国との良好な経済社会関係を形成することによってこそ達成されるという基本的な認識が持たれている。雲南省政府は次の3つの対外経済合作の促進に注目・注力している⁷⁾。

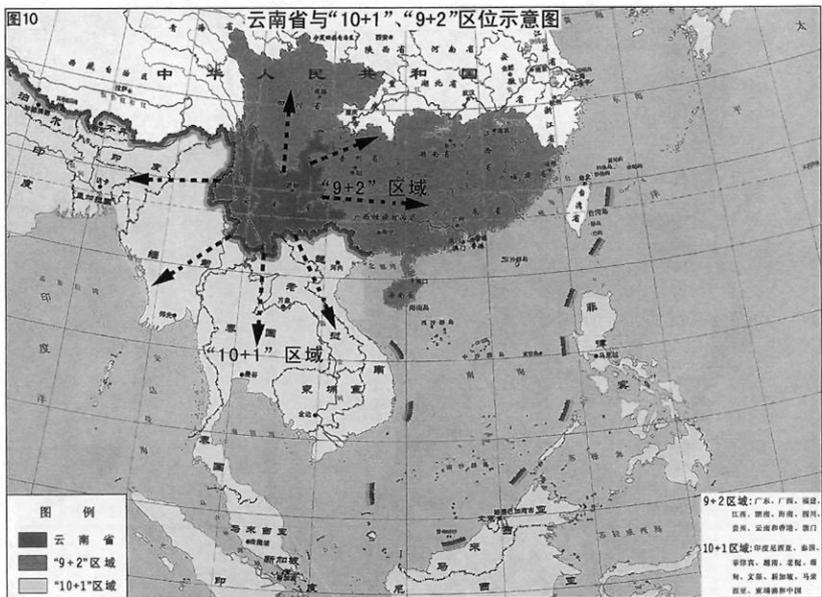
第一は「中国—東南アジア諸国連合自由貿易圏<中国—東盟自由貿易区>」である。日本では「ASEAN+3（日中韓）」「中国 ASEAN・FTA」などとしているが、中国では「10+1」区域⁸⁾とし、独自に東南アジア諸国との経済関係を深めようとしている。

例えば、次のような具体的なプロジェクトが進行中である。雲南省の瀾滄江流域では既設の水力発電所3カ所、建設および計画中の発電所は13カ所がある⁹⁾。そのうち、建設中の景洪ダムで発電する電力をタイ北部地域に供電する予定である。また、雲南とミャンマー、タイの間に光ファイバーの敷設を進めている。

第二は「大メコン経済圏（GMS：Greater Mekong Subregion）経済合作<大湄公河次区域経済合作>」である。第三は「バングラディシュ・中国・インド・ミャンマー合作<孟中印緬合作>」である。

雲南省はこうした対外経済合作を追求するとともに、対内経済合作圏として「9+2」区域¹⁰⁾を設定している。

図1-2 雲南省と「10+1」と「9+2」

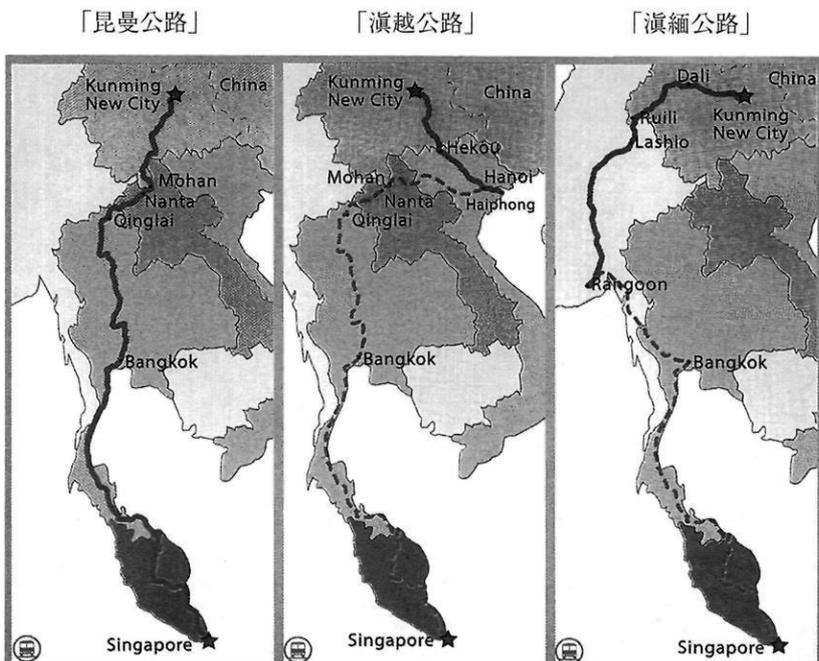


出所：雲南省發展和改革委員会 [2006]

対外交通基盤の建設

雲南省とベトナム、ラオス、ミャンマーとの国境には20カ所の国家級口岸¹⁾があり、90本の対外接続道路がある。対外接続道路のうち「昆曼公路」（昆明～磨憨<Mohan>口岸～バンコック：約1,900km）、「滇越公路」（昆明～河口<Hekou>口岸～ハノイ～ハイフォン港：約940km）、「滇緬公路」（昆明～大理<Dali>～端麗<Ruili>口岸～ヤンゴン：約1,800km）を「環アジア道路<汎亜公路>」として建設を進めている。

図1-3 汎亜公路

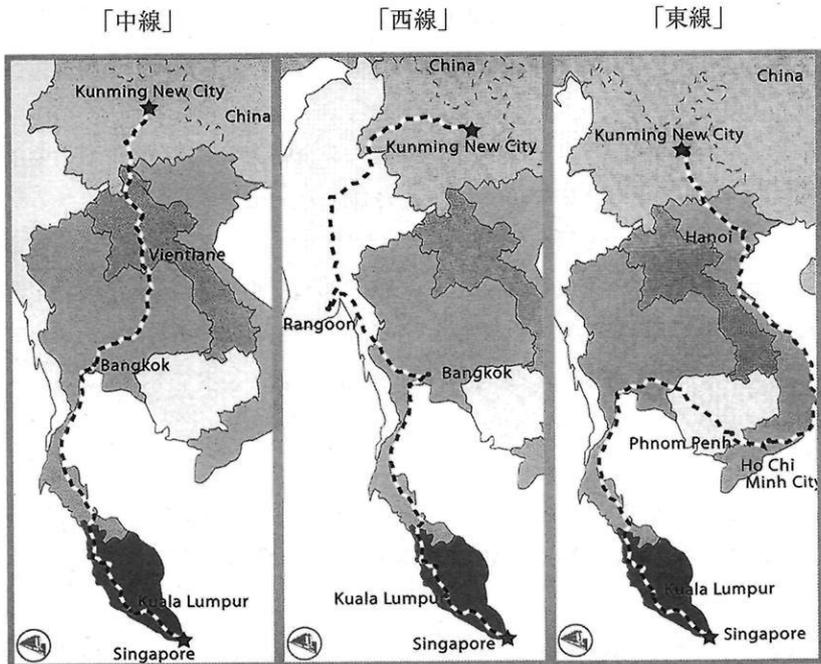


出所：昆明呈貢新城管理委員会「昆明呈貢新城パンフレット」2006年

国際鉄道ネットワーク建設については、昆明からシンガポールに至る「東線<中越鐵路>」「西線<中緬鐵路>」「中線<中老鐵路>」の3つのルートを「環アジア鉄道<汎亜鐵路>」として計画・構想している¹²⁾。

「東線」はフランスのベトナム植民地時代に建設した演越鉄道の昆明～河口口岸～ハノイの既設鉄道があるが、中国側では新線を建設中である。「西線」は昆明～大理の既設鉄道を端麗口岸まで延伸し、イギリス植民地時代に建設したミャンマー側の鉄道に接続してヤンゴン～バンコック～シンガポールを繋ぐ。「中線」は昆明～玉溪<Yuxi>の既設鉄道を磨憨<Mohan>口岸まで延伸しラオスを経由してバンコックまで繋ぐとする長期構想である。

図1-4 汎亜鐵路



出所：昆明呈貢新城管理委員会「昆明呈貢新城パンフレット」2006年

航空ネットワークについては、省内に10カ所の大中小型空港（5カ所）、小型空港（5カ所）があり、国内航空路線密度では全国1位とされる。さらに中小型6空港を建設中である。また、昆明新空港が着工し2012年に供用予定である。年間乗降客数は北京、上海、広州に次ぐ3,500万人と予想される。

雲南省の基幹産業

雲南省の五大基幹産業<支柱産業>は、鉱業、煙草、生物資源産業、観光、電力とされる。それぞれ地下資源、農林一次資源、自然・人文観光資源、水資源を基礎とする地場資源型産業である。

鉱業について。雲南省の鉱物地下資源は磷、錫、亜鉛、銅、銀、金、鉄など150種を産出する。このうち、磷酸肥料の原料として欠かせない磷鉱石は中国雲南省、モロッコ、米国フロリダ州が世界三大生産地であり、3カ国の磷鉱石採掘量は世界の3分2を占める¹³⁾。

雲南省の06年の磷鉱石産出量は約1,414万トンであり、錫鉱石（含有量換算）4万トン、錫8万トンとともに全国第一位である。磷酸肥料を中心とする化学肥料の06年産出量は305万トンに達し、全国化学工業の販売収入額第4位の「雲天化集団有限責任公司」（販売収入額約152億元）を筆頭とする化学工業が成立している¹⁴⁾。

磷酸肥料は日本へも大量に輸出している。今後、小規模に分散している磷鉱床を整理し大型企業に統合を進め、一次産品である磷酸肥料の輸出を規制し、磷酸添加剤や電子工業用、医薬用、食品加工用の高次加工素材などへ拡大し磷工業の高度化を図るとしている。

雲南の錫は古くから知られ鉱山開発、精錬がなされている。紅河<Honghe>哈尼族<Hani>彝族<Yi>自治州の州都・箇旧市<Gejiu>が主産地ある。全国の錫産出量の約9割を占める。06年の錫鉱石産出量は約4万トン、錫8万トンである。

錫は中国の近代鉱業を拓いた産品であり、清朝期から中華民国期の1909～37年には、1909年の年産約4,000トン、その後平均して6～7,000トン、1917

～37年には12～13,000トンを生産していた。その中心企業は1904年に官商合弁で設立した「蒙自官商公司」であり、1909年に「箇旧錫務公司」に改組された。また、32年に官商合弁で設立した「雲南煉錫公司」がある¹⁵⁾。

箇旧の錫輸出は中国の金属鉱物輸出額の首位にあったが、在来の精錬技術しかなく純度93.7～98.4%の品質にバラツキのある粗錫しか産出できなかった。この純度では国際錫市場のあるロンドン金属交易所では販売できないため、雲南の錫は香港でマレーシア産の錫と混合し純度を高め国際市場で販売されていた。

こうした状況にあった雲南錫業にあって、アメリカ留学で冶金学を修め帰国した繆嘉銘は銀行経営に手腕を発揮し、その利益をもってシンガポール錫精錬会社の主任技術者を高給で招聘した。錫鉱石の成分分析と精錬方法を検討し、国際市場で最高級品とされる純度99.75%の精錬が可能との結果を得て、高品位の錫を生産する雲南煉錫公司を設立した。雲南煉錫公司が国際市場から獲得する外貨収入は雲南経済の好転に大きく寄与した¹⁶⁾。

両社は1940年に「中央錫磁工程処」と合併し「雲南錫業公司」となり、現在の「雲南錫業集団有限責任公司」となっている。雲南錫業集団の販売収入額は約91億元、全国の有色冶金および圧延加工業において第20位に位置している。

また、雲南は銅、銀、鉛の全国三大産地の一つである。06年の産出量は銅鉱石（含有量換算）20万トン、銅37万トン、鉛鉱石（含有量換算）15万トン、鉛47万トンである。こうした資源を背景にして、全国有色冶金および圧延加工業における販売収入額第4位の「雲南銅業（集団）有限公司（詳細後述）」約327億元、同じく第11位の「雲南冶金集団総公司」約142億元が成立している¹⁷⁾。

煙草加工業は雲南省を代表する基幹産業である。06年の紙巻タバコの生産量は648万箱、葉タバコは54万トンとなっている。全国の煙草加工業販売収入額1位、4位、8位の「玉溪紅塔煙草（集団）有限公司」約408億元、「紅

表1-2 雲南省の資源系産品生産量

産品	単位	2000年	2004年	2006年	06年/00年 伸び率(%)
石炭	万トン	2,216	5,317	7,339	22.1
洗炭	万トン	208	326	683	7.8
硫化鉄磁石	万トン	15	26	41	18.2
鉄磁石	万トン	504	828	1,515	18.8
磷鉱石	万トン	921	1,218	1,414	7.4
銅磁石(含有量)	万トン	9	11	20	14.2
鉛磁石(含有量)	万トン	14	11	15	1.2
亜鉛磁石(含有量)	万トン	22	38	63	19.2
錫磁石(含有量)	万トン	4	4	4	0.0
原塩	万トン	49	61	80	8.5
糖	万トン	152	195	140	▲1.4
精制茶	万トン	3	4	9	20.1
巻タバコ	万箱	613	621	648	0.9
乾燥葉タバコ	万トン	22	47	54	16.1
コークス	万トン	356	904	1,234	23.0
硫酸	万トン	206	457	695	22.5
ソーダ	万トン	3	5	8	17.8
アンモニア	万トン	129	161	184	6.1
化学肥料	万トン	197	263	305	7.6
銅	万トン	16	23	37	15.0
鉛	万トン	16	22	47	20.0
亜鉛	万トン	23	50	66	19.2
錫	万トン	5	6	8	8.2
アルミニウム	万トン	14	26	47	22.4
発電量	百万Kwh	31,745	54,378	75,364	15.7

資料)『雲南統計年鑑』2007年版

注)伸び率は、2000年～2006年の年平均成長率

雲烟草(集団)有限公司(詳細後述)約256億元、「紅河巻烟総廠」約121億元がある¹⁸⁾。

電力については、西部大開発の雲南プロジェクトとして、西部地域の電力を東部沿海地域に送る「西電東送」に位置づけられており、広東省方面への500KV 高圧電力ネットワークに入っている。また、ベトナムへの売電のためベトナム側の老街および河江への2本の高圧電力ネットワークを整備している。06年の雲南省の石炭火力、水力を併せた総発電設備能力は1,853万KWHである。06年中に523万KWHの新規発電能力が追加された。

雲南省北部には埋蔵量246億トンの石炭があり、これを用いた火力発電建設が主流である。豊富な水系は開発可能な潜在発電能力は四川省に次ぐ1億キロワットがあるとされ、第11次5ヵ年規画では、あわせて三峡ダムの発電能力を上回る2ヵ所の大型水力発電開発を進めている。

表1-3 雲南省の主要製造業（年）

企業名	業種	販売収入 (億元)	利潤 (萬元)	就業者数 (人)	全国500強 順位	同産業 順位
玉溪紅塔烟草（集団）有限公司	タバコ	408	170,257	15,482	37	1
雲南銅業（集団）有限公司	銅精錬、銅製品	327	116,656	15,021	50	4
紅雲烟草（集団）有限公司	タバコ	256	252,572	15,258	75	4
昆明鋼鐵控股有限公司	製鉄、製鋼	165	13,563	28,948	119	36
雲天化集団有限責任公司	化学製品	152	66,363	28,211	129	4
雲南冶金集団総公司	有色冶金	142	97,993	21,062	140	11
紅河卷烟総廠	タバコ	121	113,945	4,095	171	8
雲南錫業集団有限責任公司	錫精錬、錫製品	91	23,160	27,707	226	20

資料) 中国企業連合会、中国企業家協會編「中国企業發展報告」、企業管理出版社、2007年。

注) 全国500強および同産業の順位は、全国製造業および同産業の販売収入額順位。

雲南省の花卉産業

雲南省の生物資源産業は砂糖黍、茶葉、天然ゴム、林産品、畜産品を原料とする天然医薬、緑色食品、花卉、バイオテクノロジー産品とされる。それぞれ「雲葯」「雲花」の地域ブランド<銘牌>形成に取り組んでいる。このうち、花卉産業についてみてみよう。

雲南省は海拔約100~6,000メートルの多様な地形と局地気候を持つことから、動植物種が豊富で「生物遺伝資源の宝庫」といわれている。植物種は中国全土にある約3万種のうち約6割が雲南省の固有種あるいは由来種とされる。切り花、鉢植植物、天然薬材、食用茸、天然ゴム、松脂などが商品作物として栽培、採取されている。

雲南省の花卉（切り花、鉢植植物）は砂糖黍、茶、薬草とならぶ重要な地域資源である。06年の切り花の生産量は約40億本、そのうち約33.5億本（84%）が昆明市で産出されている。切り花は生鮮商品であるので、消費市場への流通アクセス環境が重要である。雲南省においては、昆明市が全国および海外の花卉市場に向けた生産地市場の位置にある。切り花生産地は昆明市南部に接する玉溪市<Yuxi>（約4億本、約10%）、昆明市西部に接する楚雄州<Chuxiong>（約1億本、約2.6%）がある。

06年の鉢植植物の生産量は、約6,800万鉢であった。主要産地は楚雄州（約1,700万鉢、約25%）および昆明市（約1,400万鉢、約21%）、大理市（約820万鉢、約12%）である。

1999年の「昆明国際園芸博覧会」¹⁹⁾は、90年に大阪で開催された「花博（国際花と緑の博覧会）」に続きアジアで開催された3回目の国際園芸博覧会となり、雲南省の豊かな植物資源が世界に知られることとなった。

表1-4 雲南省の特殊作物生産状況（2006年）

区分	切り花 (万本)	鉢植植物 (万鉢)	天然薬材 (トン)	食用茸 (トン)	天然ゴム (トン)	松脂 (トン)
雲南省	398,636	6,780	39,874	21,556	264,238	110,528
昆明市<Kunming>	334,910	1,390	1,906	1,345		86
曲靖市<Qujing>	5,464	314	4,242	6,587		11
玉溪市<Yuxi>	40,749	390	384	497		3,867
保山市<Baoshan>	223	171	447	1,924		402
昭通市<Zhaotong>	941	82	5,130	584		
麗江市<Lijiang>	451	628	1,979	31		104
普洱市<Pu'er>	161	592	664	398	16,435	96,333
臨滄市<Lincang>	122	72	509	1,353	16,450	4,462
楚雄州<Chuxiong>	10,352	1,682	2,687	1,048		2,432
紅河州<Honghe>	2,094	337	4,281	730	19,045	42
文山州<Wenshan>	567	95	6,073	1,131	1,215	105
西双版纳州 <Xishuangbanna>	240		1,322	859	204,886	987
大理州<Dali>	2,193	821	5,786	4,540		337
德宏州<Dehong>	72	10	1,827	496	6,207	1,285
怒江州<Nujiang>		71	251	19		
迪慶州<Diqing>	95	125	2,387	12		76

資料)『雲南統計年鑑』2007年版

観光産業と少数民族

雲南省の06年の延べ入込観光客数は、国内観光客約7,721万人回で2000年の約3,841万人回から約2倍、海外観光客は約181万人回で2000年の約100万人回から約1.8倍になっている。同期間の観光総収入は約211億元から約500億元へ、観光外貨収入は約3.4億ドルから6.6億ドルへと大きく伸びている。

06年の海外観光客入込数約181万人回のうち、台湾および香港・澳門から約70万人回で全体の38.7%を占める。日本は約10.9万人回（5.5%）、米国約

7.5万人回（4.1%）、タイ約7.2万人回（4.0%）、シンガポール約万6.6人回（3.6%）である。

観光総収入の約500億元は煙草加工業全国1位の「玉溪紅塔烟草（集団）有限公司」販売収入額約408億元にほぼ匹敵し、観光外貨収入6.6億ドルは、06年の雲南省の外資実際投資額約3億ドルの2倍の規模に達し、観光産業の成長に期待が寄せられている。

表1-5 雲南省の観光客入込み数

区分	千人回		
	1998年	2002年	2006年
合計	760.9	1,303.6	1,810.0
台湾	130.1	339.0	348.4
香港・澳門	78.1	183.2	349.8
日本	58.0	137.4	108.5
米国	42.0	48.7	75.2
タイ	30.9	61.6	72.1
シンガポール	58.4	67.5	66.1
フランス	15.8	21.5	45.4
オーストラリア	7.9	12.1	31.4
ドイツ	20.8	15.8	29.5
イギリス	20.7	13.4	22.0
イタリア	8.3	5.2	18.1
カナダ	9.5	10.6	16.5
インドネシア	3.2	13.3	14.6
フィリピン	5.3	3.1	8.9
その他	266.7	367.2	590.2

資料）『雲南統計年鑑』2007年版

雲南省には中国の55の少数民族のうち26民族が居住している²⁰⁾。省南部に西双版纳<Xishuangbanna>傣族<Dai>自治州、紅河<Honghe>哈尼族<Hani>彝

族<Yi>自治州、文山<Wenshan>壮族<Zhuang>苗族<Miao>自治州の3つの自治州がある。省北部に楚雄<Chuxiong>彝族<Yi>自治州、大理<Dali>白族<Bai>自治州、迪慶<Diqing>藏族<Tibetan>自治州の3つの自治州がある。省西部に怒江<Nujiang>傣族<Lisu>自治州、德宏<Dehong>傣族<Dai>景頗族<Jingpo>自治州の2つの自治州がある。また、それぞれの地級市には少数民族の自治県が置かれ、民族自治地方がある²¹⁾。

西双版纳傣族自治州の州都・景洪からラオス国境の磨憨<Mohan>に至る一帯の山岳地帯は少数民族の生活空間である。河川沿いの盆地には高床式住居に住み、稲作を中心とする傣族が居住する。山地の急斜面に段々畑を開き、茶、ゴム、サトウキビなどを栽培しているのは彝族<Yi>、哈尼族<Hani>などのチベット・ビルマ語族である。

少数民族の独自の文化や産物は、雲南省の豊かな動植物や独特の自然景観とともに重要な観光資源であると認識され、後述する「雲南民族村」はじめ、各地に少数民族観光施設が整備されている。

写真1-1 傣族の集落

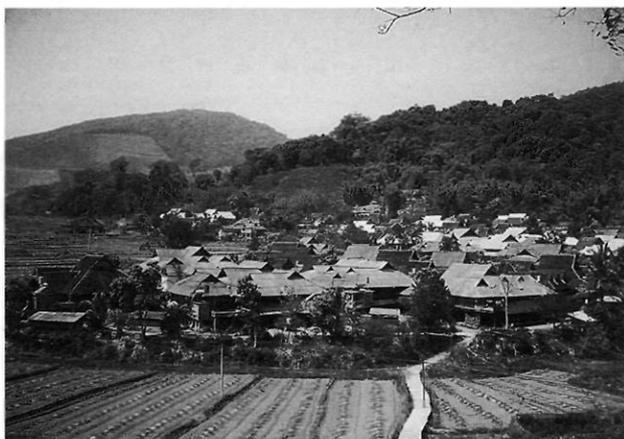


表1-6 雲南省の民族構成

区分	総計 (万人)	漢 <Han>	漢族比 (%)	彝 <Yi>	白 <Bai>	哈尼 <Hani>	傣 <Dai>	壮 <Zhuang>	苗 <Miao>	回 <Hui>	傣僳 <Lisu>	拉祜 <Lafu>	佤 <Wa>	納西 <Naxi>
雲南省 (万人)	4,483	2,964	66.1	499	163	153	131	121	105	69	67	47	41	32
昆明市<Kunming>	615	528	85.9	44	10	1	2	2	5	17	2			1
曲靖市<Qujing>	570	530	93.0	21				3	3	7				
玉溪市<Yuxi>	225	153	68.0	44	1	12	8		1	4		1		
保山市<Baoshan>	245	221	90.2	8	4		4		1	1	3			
昭通市<Zhaotong>	512	460	89.8	16	1				17	17				
麗江市<Lijiang>	121	50	41.3	23	5		1		1		11			24
普洱市<Pu'er>	257	100	38.9	43	1	46	15		1	1	1	31	16	
臨滄市<Lincang>	237	143	60.3	37	3		12		1	1	1	7	24	
楚雄州<Chuxiong>	267	180	67.4	70	2	0.5	2		4	2	5			
紅河州<Honghe>	434	190	43.8	105		72	11		11	29		1		
文山州<Wenshan>	339	145	42.8	34	1		2		103	43				
西双版纳州 <Xishuangbanna>	106	26	24.5	5		21	36					6		
大理州<Dali>	349	175	50.1	44	117				1	7	3			
德宏州<Dehong>	116	56	48.3		1		38				3			
怒江州<Nujiang>	53	4	7.5	1	15						27			
迪慶州<Diqing>	37	5	13.5	1	2						11			5

資料)『雲南統計年鑑』2007年版

区分	瑶 <Yao>	景颇 <Jingpo>	藏 <Tibetan>	布依 <Buyi>	普米 <Pumi>	阿昌 <Achang>	怒 <Nu>	基诺 <Jino>	德昂 <Deang>	蒙古 <Mongolian>	满 <Man>	水 <Shui>	独龙族 <Dulong>
云南省 (万人)	21	15	14	11	4.8	3.8	3.5	3.1	2.6	1.9	1.9	1.3	1.1
昆明市<Kunming>													0.6
曲靖市<Qujing>				3									1
玉溪市<Yuxi>										1			
保山市<Baoshan>			1										
昭通市<Zhaotong>						2							
麗江市<Lijiang>													
普洱市<Pu'er>	1			1									
臨滄市<Lincang>				4									
楚雄州<Chuxiong>													
紅河州<Honghe>	9			0.3									1
文山州<Wenshan>	8			0.7									
西双版纳納州 <Xishuangbanna>	2			5				2.5					
大理州<Dali>													
德宏州<Dehong>		14				3			1.5				
怒江州<Nujiang>					2		3						0.6
迪慶州<Diqing>			13										

写真 1 - 2 彝族<Yi>の生活空間



(3) 「南北回廊」の北の拠点／昆明市

雲南省の省都昆明市は、雲南省と貴州省にまたがる雲貴高原のほぼ中心に位置する。標高約1,900m、年間平均気温15～16度、日照時間2,200時間以上の常春の都市「春城」と呼ばれる。

市域面積21,582平方キロ（日本・九州42,154平方キロの約半分）の広がりを持ち、06年人口は約615万人である。国内総生産額（GDP）は約1,207億元で雲南省全体の30.1%を占め、一人当たり GDP は約19,600円となる。雲南省は8つの地級市、8つの自治州から構成され、昆明市に次ぐ人口規模第二、第三の都市は、曲靖市<Qijing>約570万人、昭通市<Zhaotong>約512万人である。両市の GDP はそれぞれ約537億元（13.4%）、約196億元（4.9%）の規模である。

工業総生産額においては、雲南省約4,110億元のうち昆明市が約1,482億元（全体の36.1%）を占め、次いで曲靖市が約632億元（同じく15.4%）、玉溪市<Yuxi>約542億元（13.2%）、紅河州<Honghe>約474億元（11.5%）が続く。

また、雲南省の外資投資件数204件、実際投資金額約3億ドルのうち昆明

市への投資件数、実際投資金額はそれぞれ121件、約1.9億ドルであり、それぞれ約63%を受入れている。

外国人入込数をみると、雲南省全体で約181万人回のうち昆明市約71万人回（全体の39.2%）、続いて麗江市<Lijiang>と迪慶州<Diqing>がそれぞれ約31万人回（同じく17.1%）、大理州<Dali>約21万人回（11.6%）である。

このように、人口規模で全省の約7分1の昆明市は、経済規模の約3分1、

表1-7 雲南省における昆明市、西双版纳自治州の位置（2006年）

区分	区域面積 (平方 ² km)	年末 人口 (万人)	国内総 生産額 (億元)	工業 企業数 (個)	工業総 生産額 (億元)	外資投 資件数 (件)	実際投 資金額 (万 ² ドル)	外国人 入込数 (人回)
雲南省	394,139	4,483	4,007	2,601	4,110	204	30,234	1,810,017
昆明市<Kunming>	21,582	615	1,207	889	1,482	121	19,045	707,489
曲靖市<Qujing>	29,855	570	537	302	632	2	2,019	6,827
玉溪市<Yuxi>	15,285	225	415	292	542	6	423	2,235
保山市<Baoshan>	19,637	245	135	83	62	4	257	55,000
昭通市<Zhaotong>	23,021	512	196	101	123	2	155	207
麗江市<Lijiang>	21,219	121	70	61	35	2	488	308,673
普洱市<Pu'er>	45,386	257	125	96	58	4	2,000	14,510
臨滄市<Lincang>	24,469	237	114	64	50	3	503	37,102
楚雄州<Chuxiong>	29,258	267	217	136	207	0	77	1,196
紅河州<Honghe>	32,931	434	360	179	474	4	0	48,656
文山州<Wenshan>	32,239	339	173	117	112	1	35	3,485
西双版纳州 <Xishuangbanna>	19,700	106	91	45	26	6	254	28,744
大理州<Dali>	29,459	349	275	142	212	11	1,476	209,291
德宏州<Dehong>	11,526	116	70	64	37	2	710	55,063
怒江州<Nujiang>	14,703	53	43	12	43	1	30	8,467
迪慶州<Diqing>	23,870	37	35	18	14	4	360	308,042

資料)『雲南統計年鑑』2007年版

注) 1. 国内総生産額の金額は、当年価格。省合計と地区合計は一致しない。

2. 工業企業数は、全部国有及び主管業務収入500万元以上の非国有独立計算企業。工業総生産額は、村以下工業を含む。

3. 外資投資件数と実際投資金額は、省合計に雲南省直轄プロジェクト31件、2,402万ドルを含む。当年価格。

4. 地区名は英語表記（以下、同様）

外資導入の3分2を占めている。昆明市に資本が集中し雲南省内の「一極」と「周辺」の地域経済構造となっている。

昆明市の工業構造

雲南省の近代工業は1870年代にフランス人技師を招聘し昆明に開設した官営軍需工場「雲南機器局」にはじまる。その後、昆明市の機械工業は1930年代の「大後方」²²⁾の際に沿海地域から移転してきた軍事工場が基盤を形成している。国民党政府資源委員会²³⁾は40年までに449工場を沿海・沿江地域から内陸に移転し、その約半数は四川省に移った。

資源委員会が雲南省に移転あるいは新設した工場は蒸気タービン、ボイラー、発電機、自動車などを生産する「中央機器製造廠（現、昆明机床股份有限公司）」、工作機械の「雲南机床廠（現、雲南机床股份有限公司）」は、現在、大型の旋盤、フライス盤、マシニングセンターなどを製造し欧米への輸出も行っている。また、電線、電球、電話を生産する「中央電工器材廠」「昆湖電廠」「昆明鍊銅廠」「宜良炭鋳」など10工場が雲南省に移転した。

また、資源委員会以外の中央政府機関が雲南省に移転・開設した工業として軍政部所属の軍事工学機器製造の「第二二兵工廠」、航空委員会所属の「空軍第一飛行機製造廠」などがある。雲南省全経済委員会は蚕糸、紡織、茶葉、ガラス、製紙、アルコール、燐肥、電力など28の経済建設、工業開発を進め、そのうち重工業は「中国電力製鋼廠」「雲南鉄鋼廠」「裕雲機器廠」「雲南錫業公司（現、雲南錫業集団）」である。

こうして昆明は、1930年代後半の僅かの際に四川東部、桂林、貴陽など「西南八大工業区」のなかで重慶、四川中部に次ぐ中心的な工業地域となった²⁴⁾。

雲南省の工業構造の特徴は、地域に産出する金属および非金属鉱産資源や天然薬材、煙草、水資源などの一次資源を原材料とした基礎資源系工業が優勢なことある。規模以上企業3,393社のうち基礎資源系工業が1,530社（全業種の45.1%）、工業総生産額約3,393億元のうち約2,807億元（同じく82.7%）

表1-8 昆明市の工業構造 (2006年)

	企業単位数 (件)			工業総生産額 (億元)		
	雲南省	昆明市	西双版纳	雲南省	昆明市	西双版纳
規模以上工業企業 総計	3,393	811	45	3,393.0	1,227.9	22.3
【基礎資源系工業】	1,530	411	24	2,807.7	1,033.6	11.1
石炭採掘業	155	4		55.8	3.4	
黒色金属採掘業	26	2	3	27.0	7.2	5.2
有色金属採掘業	84	11	1	123.1	10.2	0.3
非金属採掘業	27	27	1	30.0	2.9	0.05
非金属礦物製品業	279	81	5	110.0	33.2	1.0
黒色金属冶金圧延加工業	149	31	3	313.4	146.6	0.5
有色金属冶金圧延加工業	190	53		760.8	398.5	
化学原料、化学製品製造業	270	123	1	296.5	123.2	0.2
医薬製造業	89	50	4	59.0	41.3	0.3
煙草製品業	22	4		647.4	171.3	
電力、蒸気、熱水供給業	239	25	6	384.7	95.8	3.5
【機械金属系工業】	219	161	1	141.0	90.6	0.02
金属製品業	52	38	1	15.0	12.6	0.02
普通設備製造業	82	61		33.6	27.1	
専用設備製造業	42	32		28.2	17.8	
交通運輸設備製造業	43	30		64.2	33.1	
【軽工業系、その他】	699	229	20	304.4	103.7	11.2
食品加工業(農副食品加工業)	175	54	6	112.4	34.9	5.1
食品製造業	50	21		18.6	8.5	
飲料製造業	76	17	9	37.3	7.7	5.5
紡績業	19	3		9.0	1.6	
衣服その他繊維製品製造業	5	5		1.3	1.3	
木材加工、竹、藤等製品業	46	10	1	14.5	3.2	0.4
家具製造業	5	4		0.5	0.5	
造紙及び紙製品業	77	19		31.1	4.0	
印刷、複写	84	41	1	39.2	18.8	0.02
ゴム製品業	5	3		0.5	0.2	
プラスチック製品業	69	38		21.8	9.4	
ガス供給業	3	2		7.0	7.0	
水道供給業	85	12	3	11.2	6.6	0.2

資料)『雲南統計年鑑』2007年版

注)「規模以上工業企業」とは全ての国有企業と販売収入額500万元以上の非国有企業。価格は当年価格。

を占める。

この構造は昆明市工業においてより明確であり、全工業のうち基礎資源系工業が411社（50.7%）、工業総生産額で約1,034億元（84.2%）を占める。昆明市に集中している業種は、医薬製造業約41億元（雲南省合計の70%）、有色金属冶金圧延加工業約399億元（同じく52.4%）、黑色金属冶金圧延加工業約145億元（46.8%）、化学原料・化学製品製造業約123億元（41.2%）、非金属矿物製品業約33億元（30.2%）である。

基礎資源系工業の代表的企業として、燐製品、医薬品などの「雲天化集団有限責任公司」銅、金、銀、レアメタルの精錬と製品製造を行う「雲南銅業（集団）有限公司」および錫精錬・加工分野で大型企業集団を形成し、傘下企業がロンドン株式取引市場に上場している「雲南錫業集団有限責任公司」、非鉄金属冶金の「雲南冶金集団総公司」が知られる。

また、昆明市には新中国建国後、最初の電線ケーブル工場が配置され、光学分野ではニコンの OEM 生産を受託するなど民用望遠鏡で世界市場に供給しているメーカーがある。

昆明市の日系企業

昆明市投資促進局によれば、昆明市に進出している日系企業は07年3月時点で30社ある。製造業系では花卉、食品加工、木材加工、医薬品、化学製品、レンズ・光学製品、半導体材料などの製造業系が23社、ソフトウエア、サービス業系が7社である。伊藤忠、丸紅、三菱商事、三井物産、双日などの商社の支店、駐在員事務所も進出している。

雲南省は花卉栽培に適した地域として注目され台湾、韓国、日本、オランダ、米国など40数社の外資花卉企業が進出している²⁵⁾。その中で日系企業は8社が立地している。

「昆明日本人会」には昆明市に在住する日本人40名ほどが入会しており、未入会の在住者や留学生を含め昆明滞在日本人は約100名とされる²⁶⁾。

表 1 - 9 昆明市日系企業

企業名	類型	投資者		出資比率(%)	
		日側投資者	中側投資者	日側	中側
雲南河野教大農業科技有限公司	合弁	河野メリクロン(株)ほか	雲南省開發投資公司	94.1	5.9
昆明錦苑茶和園芸有限公司	合弁	個人	昆明植卉農業技術開發(有)	50	50
昆明富貴花園芸有限公司	獨資	個人		100	
昆明隆興園芸有限公司	獨資	隆祥産業(株)		100	
昆明世林園芸有限公司	獨資	個人		100	
昆明野珍花卉有限公司	獨資	個人		100	
昆明美花花卉有限公司	獨資	美麗花(株)		100	
昆明慶成花卉有限公司	獨資	中国物産(有)		100	
昆明健晶食品有限公司	合弁	平成商事(株)	雲南明大魔芋發展(有)	25	75
昆明有順食品有限公司	獨資	夏洛伊(株)		100	
雲南弘容食品有限公司	合弁	弘容実業(株)	雲南弘福公司	51	49
雲南輝龍木材開發有限公司	獨資	札幌建築材料(有)		100	
雲南華海木業有限公司	合弁	貝尔斯	昆明華東木業(有)	25	75
昆明白影堂工艺品有限公司	獨資	個人		100	
昆明人和化工有限公司	合弁	コーボ化学(株)	雲南燐肥廠	60	40
昆明隆祥化工有限公司	獨資	隆祥産業(株)		100	
大榮保健品(昆明)有限公司	獨資	大榮貿易(株)		100	
雲南雲日保健品実業發展有限公司	合弁	阿多斯(株)	雲南葯材公司	37.8	62.2
昆明白鷗微藻技術有限公司	獨資	バイオジェニック		100	
三榮源(昆明)食品原料有限公司	獨資	三榮源エフエフアイ		100	
雲南銅業古河電氣有限公司	合弁	古河電工	雲南銅業	40	60
昆明淮泉高純半導材料有限公司	獨資	東昌貿易(株)		100	
昆明欧海科技開發有限公司(レンズ)	獨資	香港日系企業		100	
雲南五岳技研技術有限公司	獨資	五岳技研		100	
昆明肯寧登諮詢顧問有限公司	獨資	華松集團		100	
雲南日友信息諮詢有限公司	獨資	個人		100	
雲南三和汽車服務有限公司	合弁	隆祥産業(株)	昆明茶花汽車廠	33.3	66.7
昆明申管道工程有限公司	合弁	エイティエス(株)	昆明自來水設備製造安裝	25	75
雲南高科環境保護工程有限公司	獨資	大阪ガスほか		100	
昆明曉憶娛樂有限公司	獨資	跨(有)		100	

資料) 昆明市投資促進局資料、2007年

